

2025年(令和7年)

第80号

(1月4日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会

発行責任者：渉外部長 澤村悦玄

編集委員長：渉外広報 植田恭司

〒605-0041 京都市東山区三条東町 230

TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

謹賀新春 京都教会ビデオレター1月号 配信中 ～東教会長発～



ビデオレター1月号が京都教会のホームページで公開されています。パスワードは各支部長にご確認下さい。  
<https://rkk-kyoto.jp/archive1/20250101>



左記の QR コードをスマートフォンで読んで、ご覧頂くことも出来ます。地区単位、各家庭においても視聴し、1ヶ月の修行目標とさせていただきます。

## 京都教会発足 65 周年記念フェスティバル ～70 周年に向けての一步～

京都教会発足 65 周年記念フェスティバルが 12 月 1 日に全館を使って行なわれ、約 400 名の会員が参集しました。コロナ禍では大勢が集まる機会がなく、久しぶりの再会にあちらこちらで喜びの声があがっていました。

早朝から晴天に恵まれ、12 月とは思えないほどのポカポカ陽気となったこの日、各支部で趣向を凝らしたブースが設けられ、屋外テントでは焼きおにぎり、フランクフルト、焼きそば、お餅の模擬店が盛況でした。昔ながらの杵と臼でのお餅つきには国会議員も駆けつけ、「ヨイショ」の歓声と共に大きな拍手も沸き起こりました。法座席ではバザー、易学、似顔絵、つまみ細工の手作り体験をはじめ、青年部のピースつかみ取りやマリオカート大会には子供たちが大きな声をあげて応援していました。スイーツやお惣菜、コーヒー、ケーキは食堂付近で、また地元で取れた冬野菜を販売したほか、おでんにしたものを提供するなど支部の特性

を感じる事が出来ました。大人の寺子屋と題して教会の歴史映像の放映や京都検定資格者による世界遺産をはじめとする京都に関する知識が得られるブースが地下研修室で行なわれたほか、ポッチャや昔懐かしい伝承遊びを子供たちに伝えるブースが体育館に設けられるなど、一日中、大人も子供も楽しめる事が出来ました。また、スタンプラリーで多くのブースを回る事ができ、景品を手にした参加者は喜んでいました。

フェスティバル開催にあたり、開会式では一食地域貢献プロジェクト 2024 の支援金が関西盲導犬協会に手渡されました。盲導犬も館内をくまなく歩きまわり、会員とのふれあいを通して、その大切さを PR 出来たようでした。

発足記念のご供養は 5 日に行なわれ、これを機に京都教会は 70 周年に向けて新たな一步を歩み出すことになりました。

【一食地域貢献支援金贈呈時の様子。関西盲導犬協会から感謝状が手渡された】



令和7年、私たちは「仏さまと出会い サンガと語り合っ て 心田を耕そう」を実践して参ります。京都教会のホームページもご覧下さい。<https://rkk-kyoto.jp/> (右のQRコードからご覧頂けます)



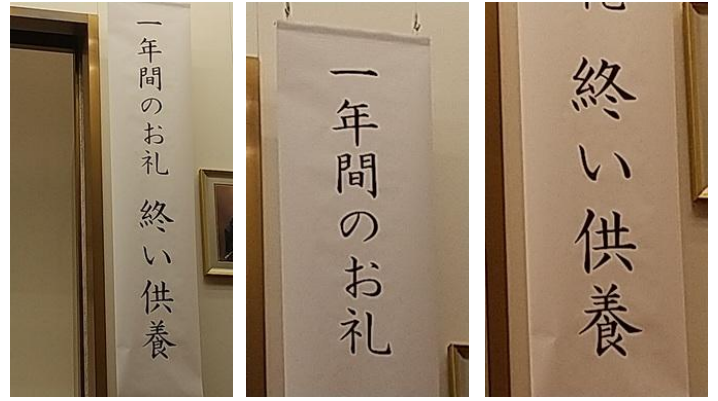
## 終い供養 ～お戒名を読み上げ、総感謝～



京都教会では 12 月 15 日に終い供養を行ない、多くの会員が参拝しました。

比叡山山頂が真っ白になったこの日、読経供養の前に初めての試みとなったこの供養の趣旨説明が東教会長から行なわれました。終い弘法、終い天神に倣って名付けた今回の終い供養は、2024 年 1 年間を振り返り私たち子孫がご先祖さまに守って頂いたお礼言上として、自宅から持参した過去帳のすべてのお戒名を読み上げることで、ご存じの方やそうでない方も含め、ご先祖の 1 人として欠けると今の自分がないことに総感謝の日とさせて頂きたいと述べました。

読経供養は東教会長を導師に、三部経の如来寿量品第十六、常不軽菩薩品第二十、観世音菩薩普門品第二十五及び青經典の陀羅尼品第二十六、普賢菩薩勸発品第二十八（陀羅尼）を読誦しました。



その後のお言葉で東教会長は、日頃の年回供養などは『この方』と決めてあげさせて頂いているが、今回は家のすべてのお戒名をあげさせて頂くことが出来たとし、総供養と言わずに総感謝としたいとあらためてその趣旨にふれました。また 12 月 1 日の庭野会長のご法話から、京豆腐について述べられたことを振り返り、揚げてもよし、焼いてもよし、柔らかくても形を崩さず、味が無いようで味があり、平凡なようで非凡であることから、京豆腐は縁を選ばないとし、これは信仰に徹した人の姿と同じで、このような人になることを目標とさせて頂きたいとしました。十功德品第三にもふれ、能捨の心や布施の心そして禅定や智慧の心を身につけることの大切さを述べ、今後の精進を促し結びました。

## 第 55 回全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会 決勝戦



追手門学院高等学校 (LUMBER JACKS) と佼成学園高等学校 (LOTUS) による第 55 回全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会の決勝戦が 12 月 22 日、万博記念競技場で行なわれ京都教会から会員約 30 名が応援に駆け付けました。会場では学園関係者は

じめ近畿支教区の教会からも会員が集まりました。

近年、常勝チームと言われる佼成学園は毎年決勝戦に進み、2 年前にも関西の会場で行なわれましたが、当時はコロナの影響もあり声出しの応援が出来ませんでした。今回は鳴り物もあり応援団のプレートに声を合わせながら歓声を送りチームを応援することが出来ました。佼成学園は第 2 クォーターで 3 点を先取しましたが、第 3 クォーターで逆転を許し、第 4 クォーターでも追加点を与え、その後は粘りを見せましたが、24 対 10 で負けを喫しました。

最後まで諦めず戦う姿に会員は勇気や元気をもらい、大きな拍手を送り続けました。

## 第 13 回ありがとうコンクール

ありがとう 1 日 100 回運動推進委員会は 12 月 8 日成道会の式典の中で、最優秀作品 1 点と優秀作品 2 点を発表し、景品を贈呈しました。今年で 13 回目を迎える本コンクールには 26 点の応募があり、優秀作

品の中には今回初めて応募した方もおられました。  
【最優秀】「ありがとう」夫婦で交わす合(愛)言葉  
【優 秀】しあわせは気づけばここにありがとう  
【優 秀】元気よく あいさつすればほら笑顔